

第4回 市場小学校第二方面校開校準備部会会議録	
日 時	平成28年7月21日(木) 19時～20時35分
開 催 場 所	市場小学校 図工室
出 席 者 (23名)	佐藤部会長、武藤副部会長、畑委員、森田委員、大伴委員、神藏委員、岸委員、村田委員、丸山委員、佐野委員、谷委員、藪田委員、上遠野委員、菅野委員、秋本委員、益子委員、貴志委員、横田委員、川端委員、渡辺委員、室井委員、益田委員、青木委員
欠 席 者 (0名)	
開 催 形 態	公開(傍聴者4人)
議 題	1 通学区域案と分校案について (追加議題) 1 関係地域の通学区域の考え方について 2 分校名案の考え方について
決 定 事 項	1 市場小学校第二方面校については、市場小学校の分校とする案を開校準備部会の意見とする。 2 事務局から追加で提示された、「関係地域の通学区域の考え方」と「分校名案の考え方」について、各所属団体に持ち帰り、意見を伺うこととする。
議 事	1 通学区域案と分校案について (事務局より「学校教育法施行規則における特別な事情」について説明) (委員)：アンケートをとってきた。その結果は、97名から集まり、ちょうど半数が、まだまだ考え中で、メリット・デメリットを考えながらどうしたらいいかわからないという意見だった。また通学路の安全についての要望が一番多かった。あとの3割が分校体制、2割が2校体制に賛成という意見だった。2校体制の意見は、今までどおり通えるようなので2校体制がいい、分校になると教員の人数が少なくなってしまうが大丈夫なのか、わざわざ市場小が実験校になる必要はない、近いところに通いたい、全学年が揃わない小学校はおかしい、という意見だった。分校体制の意見は、子ども達が充実した学校生活を送れるように、母校が無くなることにはならないように、通学路の安全、この市場地区であれば、縦割りの良さがなくなってしまうという懸念に対しては、町内の行事や地域の行事でなんとかフォローできるのではないかという意見、保育園に通っている保護者の意見を言う場はどこかという意見、自分のことを思い出してみると、他学年とのつながりより、同学年との思い出の方が多いので分校の方がいいのではないかといった意見があった。 (委員)：所属団体で、全員に対してアンケートをとった。回収率は40%で、回収数は353通だった。そのうち、1校体制がよい、2校体制がよい、と明確に記されていたものは、1校のままの分校体制が123人、学区分離

の2校体制が89人で、この両方を100とした場合、1校体制が60%、2校体制が40%というかたちになった。その他には、決定に従いますと明記したもの、どちらの支持か明記は無いがご意見・要望だけのもの、全く新たな提案もあった。あとは、白紙や特にありませんといったものも68通あった。1校体制の分校に賛成の方は、中学校との連携ができるならよい、将来1校に戻るのならよい、通学路の安全確保が必要、今の友達と別れたくない、転校したくない、6年生は本校舎に戻して欲しい、分校は4・5年生が通うようにして欲しい、地域のつながりを考え、不公平感をなくすために分校の方がよい、低学年が第二方面校に通うには通学路が危険、卒業した小学校の名前は残るべき、全学年で同時に行う行事は絶対に必要、工夫が必要、校舎に1年生から6年生までが揃わないと困るといったことはない、5・6年生に教科別の先生が付くのはよい、親子2代・3代卒業させている市場小の傳承を守りたい、1年～6年までの縦割りの交流は定期的に行って欲しい、先生方、校長先生の負担への配慮は必要、元宮の分離に反対、廃校になる学校に通わせたくない、保育園・幼稚園でみんなと一緒に市場小に通おうと話をしている、個別支援学級への配慮、教育水準は落とさないで欲しい、という意見だった。一方、2校体制に賛成の方は、やはり1～6年生が同じ校舎に揃っていてこそ、きょうだいで同じ校舎に通わせたい、第二方面校への通学は負担、1校体制の場合、校長先生・教員の方への負担が大きい、全体の学校行事への配慮が必要、運動会・引取り訓練で違う校舎へ引取りに行かないといけない親の負担、PTA活動で登校しても我が子が見られないかもしれない、どちらに通いたいか抽選、もしくは希望制にして欲しい、学年の人数が多く子ども達が不安がるのではないか、新設のマンションを第二方面校、事例の少ない分校制にチャレンジするにはリスクが高い、といった意見があった。どちらの支持か明記は無かったが、ご意見・要望だけ書かれている中には、どちらにせよ、同じようなことがご意見・要望として書かれていた。

(委員)：所属する団体で内容について説明し意見をいただいたが、どちらがいか選択しろと言われても、メリット・デメリットがまだまだわからないといったところが多い意見だった。中学校区という考えの中で、市場小がいろんな形で工夫をしていくとなった中で、平安小も同じようなレベルや水準でやっていただかないと、中学校区としては、中学にあがってから色々なギャップが出るのではというところを心配しているという話はあった。

(委員)：分校制にする場合の特別な事情について説明があったが、10年間の暫定の学校だからいいという解釈でいいのか。10年間といっても、10年の間には1年生から6年生まで丸々小学校生活を送る子どももいるわけで、初等教育というのは人生で一番大事なところで、何を根拠に先進

的な事例になるのではといったことが言えるのか私にはわからない。私の所属する団体でも色々と話をした中では、第二方面校の通学路はどうなるのかといった、生活レベルでの意見が圧倒的に多かった。安全対策の話があって、子どもと保護者が安心・安全に通学させることのできる条件が提示されれば、そのとき初めて分校というのがどうなのか議論されるのではないかと思う。小学校1年生から6年生までが揃って縦割りの教育を行うことが一番大事なところだが、そういった教育的な見地での意見はほとんどなかった。分校案にするか2校案にするか、地域でそういうことを議論するのは馴染まないのかなと感じた。

(副会長)：分校案のほうが無難かと思う。

(委員)：私の所属する地域では、分校案でいこうということになった。分校案と決まれば、その先は先生方や教育委員会という教育のプロにお任せするしかないと思っている。先生方も苦勞されるかと思うが、その中で問題があれば地域も考えていく。

(委員)：町が分かれることなく、そして小さい子があまり遠いところに行くことなく、というところで最大公約数を考え、どのあたりで折り合いをつけないといけないか、みんなで考えていかないといけないと思う。私の所属する地域では、色々な意見は出たが、分校しかないという話になった。

(委員)：新しい学校ができてそこは10年間でなくなってしまうというのであれば、そういった学校を卒業するのはよくない。だから市場小でいいという考えが私の地域では圧倒的に多かった。分校制ということで、市場小を通り越して第二方面校の校舎まで行くということに不満の声もあるかと思うが、そんなことを言えば、みんなが遠いところまで行きたくないとなってしまう。バランスよくお互いに理解しあいながら市場小はひとつというかたちでなんとかやればいと思う。そうしないといつまでたっても話が見つからない。

(委員)：この開校準備部会は、本来は学区をどうするか、通学路をどうするか、学校名をどうするかということで立ち上がったと思うが、分校案というものが出てきて、教育の質に影響が出るのではないかということ懸念したが、事務局のほうで作成した評価と課題を見ると、だいたいこのとおりではないかと思う。問題は、評価と課題の重みづけをどうするかというところで、それによって結論は変わってくる。ここにいるメンバーの中で、校長を除き、学校教育の現実をわかっている人はあまりいないと思う。どこがどれだけ重要なのか、それがはっきりとわからない。従って、はっきりと判断できないというのが私の結論で、ただ、今までの議論を聞いていると、校長先生の言っていることも事務局の言っていることを聞いても、分校案に致命的な欠点があるというようには学校のプロは言っていないので、どちらを選択してもいいというように解釈して

いる。どちらを選択してもいいのであれば、私の所属する団体としては分校案を推したいというように考えている。

(委員)：地域を2つに分けたりするということになれば、非常に困る。それが前提にあり、色々なことを考えると、私の所属する地域で話をした中では、分校にしてもらいたいという意見が多かった。

(委員)：今と同じことをするのであれば教育環境は絶対2校に分けた方がよい。ただ、今と同じことだけでいいのかということと、2校体制にしても、依然として市場小の本体は最大で1,300人規模の学校で、過大規模校としての現実は残り、第二方面校は学校経営だけを考えれば、やりやすくなる。本体のほうはそこまで大きな違いになるのかどうかというところもある。そういうところも考え、地域の特殊性というのもあり、そういう思いと現実とこれからどうするかというものの総合判断が必要で、非常に難しいとは思いますが、少なくとも1校体制、2校体制のどちらでいっても教育委員会のサポートはどちらにしても受けていかないとかなり厳しい。分校案でいったときには、本当にサポートをある程度担保していただかないと厳しい。

(委員)：中学校は全部を受入れる立場なので、平安小と市場小と今までどおりの関係を築いていかないといけないという風に思っている。そこで色々さまざまな新しいことをやっていかないといけないことも出てくると思うので、そこは自分たちも努力してやっていく。

(委員)：一般的に学校を運営していくことを考えると適正規模という考え方があるので、当然2校に分かれたほうが学校としては経営しやすいし、いろんな意味で不具合は生じないと思う。しかし、地域あつての学校であるので、分校となったときには本当に皆さんが色々な意味で支えてくださらないと校長としてはすごく厳しいと思う。単に安全面だけのことでなく、学校は人が重要なので、人がいないと運営できないので、そこを保証していただけるのであればできると思う。

(委員)：10年間というのも非常に大きいと思う。分校になって、教員の数が少なくなるというのは、そういった規則にできるだけ則らないで、保証していただけたらと思う。5人の違いは大きいので、不都合のないようにしてもらいたい。

(事務局)：運営に支障がないように配置は考えていくが、具体的な人数については申し上げることができない。

(部会長)：部会としての意見をまとめたいと思う。まとめ方についてはどうか。

(委員)：部会として結論を出す必要があるのであれば、そこはきちんとしておいたほうがいい。

(委員)：決をとる必要があるのであれば、決をとって数字で出すということは重要だが、今後の地域のことを考えると無記名投票としていただきたい。

	<p>(部会長を除く部会委員 22 名により、通学区域案と分校案について無記名投票を実施)</p> <p>(部会長)：投票の結果、分校案（1 校体制）18 票、通学区域案（2 校体制）3 票、白票 1 票で、分校案が過半数を超えたので、開校準備部会運営要領第 5 条第 3 項の規定により、開校準備部会の意見として、第二方面校は市場小の分校とするということでまとめたいと思う。</p> <p>追加議題 1 関係地域の通学区域の考え方について</p> <p>(事務局より、関係地域の通学区域の考え方について説明)</p> <p>(委員)：平成 32 年度に分校になるのであれば、私の所属する団体では、最低の条件は、転校はだめだという意見が強い。</p> <p>(事務局)：分校の場合は、たとえ他の小学校学区から市場小に通学区域を変更することになったとしても、転校にはならず、新 1 年生からを対象とする。次回までに検討してきていただければと考えている。</p> <p>追加議題 2 分校名案の考え方について</p> <p>(事務局より、分校名案の考え方について説明)</p> <p>(委員)：「市場小学校分校」というシンプルな形でいいと思う。</p> <p>(事務局)：横浜市の他の小学校の事例では、「新井小学校桜坂分校」という、分校に名前がついている事例がある。他の自治体でも分校に名前がついているところが多いが、つけずに「市場小学校分校」とすることもできるので、そういうことも含めて検討していただければと思う。</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特 記 事 項</p>	<p>1 資料</p> <p>(1) 次第</p> <p>(2) 委員名簿</p> <p>(3) 席次表</p> <p>(4) 市場小学校第二方面校開校準備部会ニュース第 3 号</p> <p>(5) 通学区域案と分校案について</p> <p>(6) 関係地域の通学区域の考え方について (追加資料)</p> <p>(7) 分校名案の考え方について (追加資料)</p> <p>2 特記事項</p> <p>次回は、9 月 28 日 (水) 19 時から公開により開催予定。開催場所は、市場小学校。</p>